

世界の錦帯橋

素晴らしい先人の知恵

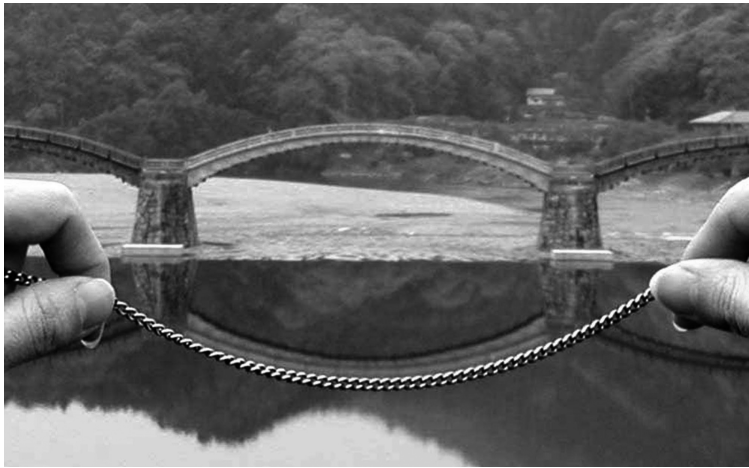
松塚 展門

先人の英知で1673年に錦帯橋は創建された。江戸時代のみならず、今日でもこれを見る人々の心には感激や驚きがこみ上げてくる。ある人は美しさに、また、ある人はその卓越した技に驚嘆する。

江戸時代末期の幕府はヨーロッパでの万国博覧会に日本国の美と技術の代表として錦帯橋の写真を

出展した。また、今から百年以上前、日本政府はパリ万博に日本国の代表として錦帯橋の詳細な模型を展示している。

これらのことから、当時、錦帯橋は国家も認める世界に誇れる日本の代表的建造物であったことが分かる。それに比べて今日の錦帯橋の扱いはいかなものであるか。



錦帯橋のアーチ

して創られたものである。その目的は流れに逆らわない形をした頑丈な石組の4つの鳥状の構築物が果たしている。それを仮に橋台と呼んでおこう。

橋台が流されなければ、その橋台間を一つなく橋脚のない橋を創れば目的は達成される。それが中央三連のあの美しいアーチ橋となった。

そのアーチ橋は、巻金という鉄

の力を借りなければ成立しない。また、アーチ全体はカテナリーという懸垂線(写真参照)に沿って形成されている。先人の知恵は素晴らしい。

これらのことを世界の方々に知っていただくために私を含め、三名で論文を書き、昨年夏、ロンドンにて学術発表を行った。錦帯橋世界遺産登録推進の一助になれば幸いである。

錦帯橋は市民の鎚

熊本大大学院 小林一郎教授

錦帯橋の世界文化遺産登録を目指す「錦帯橋を世界文化遺産に推す会(川畑道子会長)は昨年発足して以来、積極的に活動を進めています。県と市は錦帯橋世界文化遺産登録に向け、文化庁の国内暫定リスト掲載を求め、平成18年に「錦帯橋と岩国の町割り」を共同

提出しました。その後、文化庁から問題点解消を求められた市は19年に再提案、暫定リスト入りに限りなく近い「カテグリーア」とされました。市はリスト入りを目指す錦帯橋世界文化遺産専門委員会を設置、残る課題を調査・研究しているところです。

推す会は、20年3月に発足した民間団体「錦帯橋を世界文化遺産にする会」から発展的に立ち上げられた組織で、改めて市民の熱意を示し、市民の力で機運の盛り上

げを図っています。今後、いかに取り組んでいけば良いのか。市が設置している錦帯橋世界遺産専門委員会の委員長で熊本大学大学院の小林一郎教授の意見は次の通りです。(4面に関連記事)

錦帯橋はフランスの学者、アマリカの専門家、中国の研究者が絶賛しているが、専門家がいくら絶賛しても世界文化遺産にはならない。大切なのは皆さんの熱意とPRだ。

錦帯橋は①構造②歴史③仕組みに独自性がある。構造は木造アーチ橋とされるが、実は石橋の上に木造アーチ構造が載っている世界唯一の橋。これを説明する言葉はなく、あえて錦帯橋アーチ構造と呼びたい。こうした構造はヨーロッパでは1790年代に確立され

たが、錦帯橋はそれより100年も早く、独自に考案、実現した。これこそ錦帯橋の素晴らしさだ。歴史をみると、岩国藩を創設した吉川広家は戦時下の山城、平和の町づくりに素晴らしい技術を持っていった。関ヶ原の合戦後、岩国に来た広家は城山に岩国城を築き、錦川を城を守る外堀に見立てた。一国一城令で城が廃棄され、平和な時代が訪れると、錦川を内堀とし、横山・錦見地区の町づくりを始め、流されない橋が必要となった。この歴史の流れの中で必然的に生まれたのが錦帯橋。こうした歴史的背景も含め、世界文化遺産を考える必要がある。

石橋と違い、錦帯橋は一定期間で架け替えなくてはならなかった。橋そのものを永久に残すことは難しいが、作り方を永久に伝えることで橋を守った。技術を伝承して守るといふ発想は西洋になく現代技術で作られた橋も1000年後には形は残らない。しかし錦帯橋は作り方、木材の確保、資金調達など技術、手法を守り続ける限り永久に残る。これが重要だ。暫定リスト掲載競争は激化している。岩国はのんびりしているのか心配だが、決してあきらめることなく、技術を伝承し、人材を育成して市民挙げて運動を続けなければ必ず錦帯橋は世界遺産になる。錦帯橋は橋ではなく、鎚(かすがい)だ。一般に橋は通行するためのもので、受益に見合った金額で作られる。ところが、錦帯橋は

通常の橋では考えられない莫大な資金がかかっている。しかも最初につくった橋は流されてしまい、すぐに作り直された。城などと同じ軍事施設だと考えると、金に糸目をつけず、錦帯橋を作ったことが理解できる。

錦帯橋は横山と岩国を結びつける鎚と考えられる。つまり絶対に流されてはいけない。そのため、試行錯誤して川底に敷石を敷設し、橋台を作り、その上に木でアーチを作った。西洋人が1900年かかって作るようになったアーチを17世紀に考案していた。錦帯橋は恐ろしく素晴らしい橋だ。だが、世界文化遺産ということ考えると、大きな壁がある。まず、日本人はその価値を分かっている。多くの岩国市民もわかろうとするのではなく、今はまず市民が、歴史、生活の中で錦帯橋を誇れる風景、人をおもてなしする時に、ぜひ見てもらいたい風景と思えるようにする活動が必要なのではないか。

錦帯橋は市民が大切に思っている間は残っていく。景観の中に創建当時にはなかった人工物があれば、いつか消えていくよう措置を考えていけば、必ず将来まで昔の景観を残していけるようになるのではない。長い時間をかけ、自然に昔の風景に回帰させていくことだ。市民は「世界のために私たちが守っている」との思いで息長く錦帯橋を守ってほしい。

通常の橋では考えられない莫大な資金がかかっている。しかも最初につくった橋は流されてしまい、すぐに作り直された。城などと同じ軍事施設だと考えると、金に糸目をつけず、錦帯橋を作ったことが理解できる。錦帯橋は横山と岩国を結びつける鎚と考えられる。つまり絶対に流されてはいけない。そのため、試行錯誤して川底に敷石を敷設し、橋台を作り、その上に木でアーチを作った。西洋人が1900年かかって作るようになったアーチを17世紀に考案していた。錦帯橋は恐ろしく素晴らしい橋だ。だが、世界文化遺産ということ考えると、大きな壁がある。まず、日本人はその価値を分かっている。多くの岩国市民もわかろうとするのではなく、今はまず市民が、歴史、生活の中で錦帯橋を誇れる風景、人をおもてなしする時に、ぜひ見てもらいたい風景と思えるようにする活動が必要なのではないか。錦帯橋は市民が大切に思っている間は残っていく。景観の中に創建当時にはなかった人工物があれば、いつか消えていくよう措置を考えていけば、必ず将来まで昔の景観を残していけるようになるのではない。長い時間をかけ、自然に昔の風景に回帰させていくことだ。市民は「世界のために私たちが守っている」との思いで息長く錦帯橋を守ってほしい。